

特定非営利活動法人 くまがや小麦の会

事業名	埼玉県産小麦を使用した県立高校オリジナル製品開発による地元活性化事業	
枠の種類	(1) 一般枠 ・ (2) ネーミング事業	
① 事業の目的	① 高校と地元の共働事業を通じて、人と人の繋がりを図る。 ② 埼玉県産小麦を使った自校のオリジナル製品を持つ事により、自校への愛着を深める。 ③ 県立高校の優位性が地元の活性化に繋がる ④ 地元熊谷の製造販売業者と小麦の会が提携して、ソーシャルビジネス展開する。 ⑤ 小麦の会は北部地域振興センター、熊谷農業振興課、地元八木橋百貨店と連携し事業をサポートする基盤を構築する。	
② 地域の課題と現状	① 県立高校は地元（市町村）との交流が少ないように思える。前述した事業の目的の⑤で触れているように、学校、行政機関との間にNPO法人が入り地元業者、生産者と共働事業を行うことにより連携が深められ、基盤を構築してゆきたい。 ② 熊谷市は川越市に続き埼玉県内2番目の市政施行の市である。暫く前は県北の雄都として輝いていた。時代の変化により、地方都市として精彩に欠く。高校の優位性は地方都市にとって、大きな力となる。共働事業を通じて、高校生の関心を3年間通う高校生活の一コマとして、地元に関心を持って頂き、将来地元の活性化に貢献してもらいたい。	
③ 事業の対象	A小麦の会 B熊谷市内県立高校8校 C北部地域振興センター、D熊谷市役所農業振興課 E八木橋百貨店 F地元製造業者 G一般市民	
④ 事業内容	行政機関、県立高校、地元業者との打ち合わせ	対象
	県立高校スイーツ文化祭の実施	
	活動の報告、更に製品の宣伝をタウンタウン小麦の発行を通して行う	
	関係者の打ち合わせ会	
	県立高校8校から埼玉産小麦を使った製品のアイデア募集	
	製品化する協議	
	県立高校スイーツ文化祭開催（11/3 八木橋百貨店）	
	各校オリジナル製品の活用	
⑤ 事業の実施により達成したい成果	① 埼玉県産の原料を使った製品が高校のオリジナル製品として活用され、NPO法人が仲立ちとなった連携が作られる。	AB
	② 高校生に地元への愛着が根付く。自校オリジナル製品の開発に係わった事が長じて長い目で見れば、熊谷市の力になって行く。	AB
	③ 地元製造業者は大型店に押されて経営が困窮している。家族で製造に当た	AF

	っている業者が多いので空いた時間を埋められる、隙間の仕事には有効に思う。高校生のアイデアをくまがや小麦の会と共働して形にし、地元の製造業者に製品に仕上げて頂き、熊谷を代表する八木橋百貨店で販売して頂く事は、教育の現場を含めた、NPO法人が出来るソーシャルビジネスとして地域との連携が深められる事業に発展してゆけると考える。。	
⑥ 事業の測定方法	① ②高校へアンケートの回答をお願いする。 ② 八木橋百貨店に来店した方に県産麦のアンケートを取る ③連帯した製造業者に高校オリジナル製品と共に催事で、小麦の会から発注した商品の売り上げを計算して、業者の全売り上げに占める%を出す。	A B C D A E
⑦事業がどのように課題解決につながるか	① 地域の課題と現状で既述したように、どの市町村もそうであろうと思いますが、県立高校への連絡の手が無く、熊谷市長は県立高校とコラボできているのは、市役所前の植え込みだけなので、小麦の会の県立高校との連携を続けて欲しいと言われておりますが、心もとない話です。NPO法人が県立高校と地元企業との間で共働して、行政のバックアップが有ったら地元にある高校と地元との連携が進むと感じます。 ② 高校のオリジナル商品を現役高校生に販売を担当して頂き、県立高校スイーツ文化祭が、八木橋百貨店で開催される事で、先輩の来店が期待される。交流の場が持たれる事が想像できる。自校への愛着は深まる事と思う。又OBにとっても、此の催事から母校訪問、更には催事に来てくれるOBは意識が高い方なので、OB情報リストを準備して対応したい。NPO法人が企画する本企画が、県立高校、OBとのネットワークを構築する事に繋がり地元熊谷の力になる。 ③ 高校の繁栄は地元の繁栄につながる、OBと現役高校生と母校のとの連携が出来て行けば、町づくりの良い牽引力になる。	A B F

⑧事業計画	月	事業計画	広報計画
	7	第1回定例会 事業案内の検討(ABCDE参加) 製品のアイデアのコンペを高校と打ち合わせる。 各校の夏休み宿題に小麦を原料にした製品のアイデアを募る。コンペとして採択作品を表彰して製品化する	タウンタウン小麦を発行 開催案内を行う
	8		
	9	第2回定例会議 製品の確定(第1回と同じ参加) 参加業者と製品化の打ち合わせ。必要機材の発注	
	10	第3回定例会 最終打ち合わせ(参加者は同じ)	小麦の会会員に開催を通知する 八木橋広告に県立高校スイーツ文化祭開催を掲載して頂く。 熊谷市市報にも掲載をお願いする
	11	県立高校スイーツ文化祭 開催(八木橋百貨店) アンケートの実施	タウンタウン小麦を発行 実施風景、報告を行う
	12		
	1	第4回定例会(参加は同じ) 事業結果取りまとめ。次回への展望	
	2		
⑨連携先	熊谷市役所農業推進課 島村課長(048-588-1321) 熊谷高校 関根教頭(048-521-0050) 熊谷商業高校竹越教頭(048-523-4545) 熊谷工業高校 斉藤先生(048-523-3354) 熊谷農業高校杉先生(048-521-0051) 熊谷西高等学校 奥先生(048-532-8881) 熊谷女子高校 羽田校長(048-521-0015) 熊谷特別支援校 藤倉先生(048-532-3689)		
⑩役割分担・連携体制	① 小麦の会が主体となり、行政からは、北部地域振興センターはNPOとして地域での共働事業の展開に、熊谷市役所農業推進課は埼玉県産小麦の地産地消の推進に県産小麦の情報を流して頂き、各々、バックアップをお願いし、県立高校との共働事業を充実させてゆく。 ② 県立高校は自校のオリジナル製品開発のアイデア、又製造が可能な高校は製造も行う。県産小麦の普及を念頭に置き、小麦の会は各校のオリジナル製品の開発に当たり、製品シール、製品の宣伝、製品の製造に共働事業として取り組んでゆく。 ③ 市内菓子製造業者は、小麦の会を仲立ちで、製品の製造が出来ない高校のオリジナル製品のアイデアをサブレ、パン等に仕上げて頂き、市内菓子製造業者は自社の製造の空いた時間を活用して、製造に当たって頂く。市内菓子製造業者への隙間の時間活用になる需要の創造を、地域と取り組むNPOが仲立ちとなり、ソーシャルビジネスとして展開してゆきたい ④ 八木橋百貨店は県立高校スイーツ文化祭の会場となり運営に協力する。広告活動も協力する。出店する各高校の売り場での、先輩との交流の場を創造するには八木橋百貨店が最適である。		
⑪補助終	これまでの活動を通して感じます事は、熊谷市と県立高校との接点は、行政の区分けにより少な		

了後の継続	い状況にあると思われます。NPO法人が行政のバックアップを受けながら、地域の課題解決案件と行政の間に入る事で、スムーズに事業が運営できると考えています。行政とNPO法人が連携して地域社会の問題解決、新しい組織の構築に当たることにより、行政ならではの、グローバルな見地からのアイデア、助言が頂け、NPO法人の活動が地域の情報を生かし、効率的なものとなり活動が提案で来ると思います。行政、民間の垣根を緩和する事がNPO法人に課せられた課題とも思います。行政が踏み込み難い問題も、NPO法人と提携する事により意外な解決方法も見出せる可能性が秘められています。 現在継続している県立高校との共働活動を拡大して、近隣の県立高校にも働きかけて、各々の県立高校が置かれている市、地元企業との連携を図って行きたいと思います。 行政、地域、NPO法人との共働が地元の活性化、地元企業が継続してゆく力に繋がって行く可能性を秘めていると考えます。NPO法人に係る事業にとっては取り組んで頂く相手に迷惑を掛けない事が重要と思います。売れ残った製品は小麦の会で会員に、協力を仰いだり、連携している養護施設に、寄付するシステムも出来ております。NPO法人も事業体ですので、一般企業と経営面では同様な努力が必要です。地元企業の得意分野は、すぐ近くに製造設備が有り、製造に当れる家内工業が多いということです。隙間の時間が活用でき、売上げ増進になる業務は受け入れられております。ソーシャルビジネスとして、地元企業とNPO法人の連携は地域の活性化に良い方向に伸びて行けると考えています。当会の発足時14年前は、まだNPO法事に特殊な見方があり、共働を行うまでに時間がかかりました。今は共働する地元企業さんから「小麦の会に感謝している」と言って頂いた事は、本当に嬉しかったです。NPO法人だからできる事が地元を元気にして行くはずで。 現状緊急事態宣言中の申請に当たり、計画の中に11月3日の熊谷市八木橋百貨店で開催を予定しております、県立高校スイーツ文化祭が八木橋百貨店がオープン出来ない状況がコロナの二次感染で起きないとも限りません。その際は八木橋百貨店でスイーツ文化祭は出来なくなると思いますが、今回の各校オリジナル製品の活用を自校の文化祭、PTA活動に広くご使用いただけます様、連携を続けて参ります。小麦の会が日頃、製品を製造している作業所がございます。各高校の皆様に文化祭等の製品製造には、ご使用頂いております。補助終了後も活動を通して、本事業の目的で有ります、県産小麦を原料にした高校オリジナル製品の活用を行政、市内製造業者、高校、がNPO法人を仲介として、市内活性化に繋げてゆくと言う、目的に向って活動して参ります。
-------	---